

## 令和7年度 知事・市長意見交換会

日時：令和8年1月26日(月) 14:45～15:25

場所：高知市役所 4階特別応接室

### 【司会】

ただいまから、令和7年度知事・市長意見交換会を始めさせていただきます。

初めに、桑名市長からご挨拶を申し上げます。

### 【桑名市長】

本日はお越しいただきましてありがとうございます。

本市では、現在、来年度の予算編成作業を行っており、この時期に県と市の考え方の方向性を合わせることは本当に貴重な機会でございます。

有意義な意見交換になること期待をしております。

### 【濱田知事】

高知市の皆さんには、日頃から大変お世話になっております。

今、県政の重要課題として人口減少対策や南海トラフ地震対策がございます。この点については、特に県人口の半分を占める高知市と連携し、意識をすり合わせて事業を進めないとうまくいかないということもあります。予算編成大詰めはこの時期に、このような形で率直な意見交換ができることは、私としても大変うれしく思います。よろしく申し上げます。

### 【司会】

それでは協議項目に移らせていただきます。

本日の協議項目は6点ございまして、最初に、「高知県人口減少対策総合交付金等」について、濱田知事から発言をよろしくお願いいたします。

### 【濱田知事】

人口減少対策は県政の最重要課題と位置付けており、マスタープランである元気な未来創造戦略の中で、若者や女性に選ばれる高知の実現、これを中心に据えて取り組んでいます。

現状、出生数や社会増減の状況は厳しいですが、特に来年度は、1つは若者の所得向上、そのための高付加価値型の経済への転換というのが大きなテーマだと考えています。

また、2つ目は、広い意味での働き方改革ではないかと考えています。

この他にも、個別事業のレベルでは移住定住対策の強化や、出会いの機会の拡充といったものもありますが、やはり、若者の所得向上と働き方改革ということで、高知を若者や女性にとって魅力がある社会に変えていくことが何よりも大事と考えています。

これが、少子化の対応もそうですし、いわゆる社会増減を改善していく。そして、やはり

何よりも、高知に住むことで、豊かな自然のもと、やりがいのある仕事に挑戦できる。その中で、家族とともにゆとりある暮らし方で、都会にない生活スタイルが高知で実現できるという姿を都会の方々にPRしていくことが大事ではないかと思えます。

具体的な取り組みは、市町村の皆さんとスクラムを組んで行う必要があります、人口減少対策総合交付金を交付させていただいて、高知市の皆さんとも連携協力をして取り組みを進めさせていただいているところでもあります。特に高知市におかれましても、若者増加に向けて様々な切り口からこの交付金を活用して、精力的に取り組んでいただいていることについて、感謝を申し上げます。

高知市の皆さんには、昨年11月には、県で設けた、有識者によるフォローアップの場にもご参加いただき、交付金事業の実効性を上げていくことについてご助言、ご提案を熱心にお聞きいただいたところです。来年度は、このフォローアップの場をさらに拡大するとともに、具体的なバージョンアップに向けて、専門アドバイザー派遣といった伴走支援の仕組みを作りたいと検討しております。

ぜひ、高知市におかれましても、こうした支援策も活用いただきながら、人口減少対策のさらなる強化に向けて、様々な検討をお願いできればと思います。

#### 【桑名市長】

本市としましても人口減少問題は大きな課題として捉えております。

住み続けたいと思ってもらえるまち、いつかは帰ってきたいと思われるまち、また、一度は住んでみたいなどと思ってもらえるようなまちづくりを進めているところでございます。

その中で、ライフステージに応じた切れ目のない支援体制を構築するよう、今、準備を進めております。また、シティプロモーションやふるさとワーキングホリデーの導入など、新たな取り組みも加え、それぞれの事業をブラッシュアップしているところです。

また、県の人口減少対策総合交付金を活用させていただくとともに、今年度は、県が提供するフォローアップミーティングの場に参加させていただき、様々なご指摘やご意見をいただいたところでございますので、これをしっかりと取り入れて、施策を加速化していきたいと考えております。

最近、直近の高知市の人口の状況が明らかになりました。これまでは、対前年で4,000人を超える人口減少幅がありましたが、令和7年の減少数は3,686人とどまり、若干落ち着きを見せました。また、出生数については、令和6年が1,678人まで落ち込んでおりましたが、令和7年では1,708人ということで、30名の増加に転じたところでございます。社会減につきましては、令和6年は1,474人でしたが、令和7年は1,052人となり、その幅が縮小しております。まだまだ、これらは一時の状況ですので、危機感を持って、しっかりとさらなるV字回復を図っていきたいと思えます。

先日の成人式でも披露をして、知事にも聴いていただきましたが、「GR4N BOYZ」さんに本市のPRソングを作っていただきました。これが大変良い曲でございます。本市のPR

ソングとして全国や世界に高知の魅力を発信することに加えて、もう1つ、私は、これが高知市民の応援歌であると思っております。この歌を学校の教育現場で子どもたちに聞いてもらい、一緒に歌うことで、ふるさとを感じていただき、そして、高知から県外へ出ていった人たちにも聴いていただいて、ふるすとは高知だと思ってもらえるように発信していきたいと思っています。

若い人たちに高知をふるさとだと感じてもらうのと同時に、関係人口や交流人口を広げていかなければなりませんので、その両面で、歌やシティプロモーションなどを活用し、様々な取り組みを進めていきたいと思っております。

#### 【濱田知事】

本日、県でも元気な未来創造戦略本部会議を行いまして、高知市ほどの状況の反転まではいっていませんが、出生数、或いは社会増減については、県全体として減少基調ながら少し底を打つところが見えてきたなというような状況です。

お聞きしたところ、高知市の方では反転の兆しが見えており、大変ありがたいことです。ぜひ、高知市がリードする形で、人口減少の克服に道筋が付つけばと思っております。

#### 【司会】

続きまして、「消防広域化」について、濱田知事からお願いします。

#### 【濱田知事】

消防広域化に関しては、桑名市長また高知市の皆さんには大変なご協力をいただきまして、1月7日に3回目のあり方検討会を開催しまして、基本計画案についてご了承いただきました。

市長には検討会だけでなく、総務部会にも全てご出席をいただいて、熱心にご議論いただきまして、色々なご心配もいただいてご助言もいただきました。改めて感謝を申し上げます。

この検討会の席で私自身申し上げましたが、来年度は、法定協議会に先立って任意の実務的な協議会を設置して、実施計画案の作成に取り組むことを提案させていただきまして、ご了解いただきました。

そうした中、特に首長さんの間では、統合後のイメージは分かってきたが、財政負担は大丈夫かなというご心配が大変多いと思っており、この財政負担の言葉をかなり大きく左右するような要素については優先的に議論をしなければならないのではないかと考えています。

具体的には、この分担金を市町村間でどう分担するかというルール、或いは総額を大きく左右するような施設整備、この規模感については、まだ議論が十分できていないところがあります。

消防車両の整備計画をどうするか。特に消防指令センターの設置場所は既存施設を活用

するという方針は書きましたが、まだ具体的な方針までは決められていません。

こういったところは、ぜひ、高知市の皆さんと県の事務方で知恵を出し合う形で解決策を見出したいと思っています。

車両の整備計画なんかも申し上げましたが、消防力に関しては、国の基準で言うと、今、高知県内では15消防本部がありますので、はしご車は13台持たないといけないという目標になっています。現実には高知市で2台持たれていて、必要なときに応援派遣することで何とかやりくりしていますが、そもそも、13台という目標がいいのかどうか。そんな議論を今後していかなければいけないし、こうした問題になりますと、当然一番の専門家は県内では高知市消防局の皆さんですので、お知恵を借りて、まさしく高知市消防局が中核的な役割を果たして広域化に向けて、引っ張っていただくような、そうした展開が、来年度も必要だと思います。

そうした中で、次なる大きな目標として、来年度末、来年2月か3月ぐらいから、遅くても令和9年度前半くらいまでには、広域連合や、法定協議会の設置について議会の議決をいただくというところまで何とかこぎつけなければいけないというスケジュール感を持っております。

市町村の間で色々お考えがあって、調整は大変だと思いますが、県の方でも、橋渡し役としてこれまで以上にしっかりと、表に裏に汗をかいて参りたいと思いますので、よろしくご協力お願いします。

#### 【桑名市長】

1月7日のあり方検討会において基本計画案が承認されました。これまで議論する中で、分賦金のシミュレーションや任意の協議会を設置していただくなど、様々なところで市町村の声を聞いていただいたことに感謝を申し上げます。

今後は、任意の協議会において、分賦金の算定方法や職員の処遇、そして消防装備の問題など、様々な課題が議論されます。

こういった議論は、総論賛成・各論反対のような状況になることが多いですが、しっかりと説明いただき、納得がいくような形で法定協議会の議決に持っていければと思っております。

ただ、先日の会議でも申し上げましたが、これは市町村長の思いだけではなく、議会の議決をいただかないといけないという大変ハードルの高いものでございます。我々もしっかりと説明していきますが、説明をするにあたっての根拠を県にもお示しいただきながら進めていかなければいけないと思っております。

本市の消防局が求められているものは私も承知しておりますし、先般の議会でもそういった答弁をさせていただきました。高知市だけではなく、高知県全体をしっかりと守っていくというのも、県と本市の役割であると承知をしているところでございますが、これから議会で議論していくこととなりますので、私もしっかりと説明をして参りたいと思います。

そしてもう1つ、先ほどありました指令センターの設置場所についてです。当然、我々も協力をしていかなければなりません、なかなか手狭であり、どのスペースが確保できるのかということを検討しているところです。今後も県と一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 【司会】

それでは、続きまして、「中央地域の公共交通の維持・確保」について、濱田知事から発言をお願いいたします。

#### 【濱田知事】

公共交通の問題に関しましては、特に昨年、一昨年あたりから、バスの運転手不足で路線の廃止をかなりやらなければいけないという中で桑名市長にも大変ご心配をいただきました。

我々としても、昨年度末に「中央地域の公共交通の将来像」の実現に向けて、市町村にも入っていただいてワーキンググループで決定をしていきました。

この方針に従い、分担して検討作業をやることとし、路面電車はかなり広域にもわたりますので、県が中心となって長期的なあり方について検討を進めます。そしてこれについては、本年度中には路面電車の将来的なあり方を複数パターン想定して、調査結果のまとめを行います。この結果を踏まえて、今年の秋ぐらいには路面電車の10年先ぐらいを睨んで、どのような形で対応するかということについて方向性をまとめるということで、やっていきたいと思っております。

一方で、路線バスにつきましては、もうこれよりローカルな課題ということになるかと思っておりますので、高知市が主催されている地域公共交通会議を中心に、5年後ぐらいの目安で、将来的な姿をどうするかという検討を進めていただいております。今年度末にこの会議が開催される中で、5年後の姿についてお示しをいただくという方向で、鋭意作業をお願いしているように承知をしております。

この持続可能な公共交通ネットワークの構築については、今までの議論に加えまして、懸案であり時間のかかる課題になりますが、電車とバスの並走区間をどう見直しをしていくかや、先だって市長にも乗車いただいた自動運行の実証実験も含めて、新しい交通モードをどう活用していくか。その上で、行政として、財政的な支援のあり方などを一体的に検討していかなければいけないということだと思います。引き続き、県市が連携をして、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

当面の話として、昨年の6月議会で、県の方で債務償還支援ということで、とさでん交通の経営の安定化についてやって欲しい、またこれについては関係する市町に、協調して支援をいただくということで、ご了解いただきました。さらに、国の経済対策を活用しまして、特に県としての公共交通の利便性向上とか利用促進策を、もう1歩踏み込んでやらなければ

ばいけないと考えています。ガソリンや軽油の暫定税率が廃止となり、高知県はマイカー志向が強いので、放っておくと、皆さんまたマイカーの方にシフトしていてもいけないと思っています。やはり公共交通の方もしっかりと利便性を高めるということで、今対抗していかないといけないだろうと思います。

そういう意味で、高知市におかれましても、この重点支援交付金も活用した公共交通支援を検討いただいていると聞いておりますが、ぜひ、地域の視点に立って、効果的な支援策をご検討いただいて、講じていただくということをご期待申し上げたいと思います。

#### 【桑名市長】

本市でも中央地域の公共交通の将来像の実現に向けて取り組んでおります。

「高知市地域公共交通会議」や昨年度発足しました「地域公共交通リ・デザイン分科会」において、様々な課題について議論しているところであり、5年後の路線バスのあり方については、本年度末を目途に取りまとめ、お示しするよう考えているところです。

人口減少が進み、運転手不足も歯止めがきかない状況であり、今後もバス路線の再編は避けられない状況でございますが、利用者ニーズに合わせたバス路線ネットワークの再設計やダウンサイジング、また、他の交通モードの活用によって、中央地域の公共交通を持続可能なものにするよう取り組んで参りたいと思っております。

また、とさでん交通の支援でございますが、知事もおっしゃった国の経済対策を活用して、しっかりと取り組んで参りたいと思っております。

県関係市町と連携すること、そして方向性を合わせるということが大切だと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

#### 【司会】

続きまして、「県版被害想定 of 取り組みや避難所対策等」について、濱田知事から発言をお願いいたします。

#### 【濱田知事】

南海トラフ地震対策ですが、国が昨年度末に新しい被害想定を発表したことで、これに準拠して、より精緻な高知県版の被害想定を作る作業をやっており、昨年10月に、まずその前提にある震度分布や津波の浸水区域の部分のシミュレーションを10数年ぶりにやり直しました。

高知市内を見ますと、最大震度7の面積割合が約3倍の36%まで増加。これは、より緻密な、精緻なデータが入るようになったからということではありますが、こちらの方は厳しい数字が出ています。一方で、津波浸水面積は、これも地形のデータなどを置き直したら、逆に7%ぐらいの減少となっています。

全体としても厳しい予測であることには変わりはありませんので、これをベースとしま

して、具体的な人的な被害と、建物被害がどうなるかということについて、この3月末には県の方で想定を公表したいと思います。

ただ、おそらく一般的には厳しい方向になると思いますが、国の想定では高齢者の避難時間が3割から5割増えるとか、そんな厳しい想定になっていますし、負傷者も倍増するのではないかとされていますので、新しいテーマであります災害関連死の抑制というところも含めて、さらに汗をかかないといけないと思います。

来年度は、そのような新しい被害想定を前提に、行動計画のバージョンアップをやりたいと思っています。

お願いといたしましては、高知市では、県の補助金を活用いただきながら、もうすでにハザードマップの改定に取り組んでいただいていると承知しておりますけれども、この新しい被害想定が年度末にできましたら、来年度以降、また新しい各種計画の更新などの対策をお願いしたいと思います。

そうした中で、かねてよりお願いをしておりました高齢者などの要支援者の個別避難計画は大変な作業ですが、優先度が高い方の計画策定率は市内で6割ぐらいまで進めていただいたということで、ありがとうございます。さらに着実に、整備をお願いしたいと思います。

その上で、国の方の今の大きなテーマが、秋にできます防災庁です。

避難所などの避難環境の整備をして、災害関連死を極力抑えていく。そのために国の方も地域未来交付金や、或いは緊防債の手当なども準備をしていただけるということでもあります。ぜひ、避難所の資機材の整備なども、市の方でも、進めたいと思います。

一方で今回、国際的なスフィア基準に準拠して、避難所を整備するということでありまして、高知市でも、なかなか1人当たり3.5㎡というこの新しい基準を満たすには、さらに多くのスペースが必要です。

今でも不足している避難所が、さらに不足するのではないかとということが懸念される状況だということだと思いますので、先般も広域避難協定を香美市さん等にご協力いただきに行いました。さらなる広域避難先の確保について県の方も積極的に汗をかいていきますので、高知市におかれましても、例えば広域避難所における避難所運営のマニュアル作成といったような取り組みも進めていただく必要があると思います。引き続きのご努力をお願いしたいと思います。

#### 【桑名市長】

10月に公表されました被害想定は大変厳しいものであったわけですが、本市としてはやるべきことをしっかりやっていくということで、まずは揺れから命を守る、津波から命を守る、守った命はつないでいく、そして、地域の防災力の向上という、この4つの柱をしっかりと進めて参りたいと思っております。

また、この3月末の被害想定公表後は、各種防災計画やマニュアルを順次バージョンア

ップしていきながら、南海トラフ地震対策を、より一層強化、加速していきたいと考えておりますので、県には、財政面においても、技術面においても支援をお願い申し上げます。

避難行動要支援者の個別避難計画の策定につきましては、本市では委託しておりますが、委託業者とは今後の取り組みについて協議を行っており、計画策定率の向上に向けて、効果的な取り組みをこれからも推進していきたいと思っております。

次に、災害関連死をどう防いでいくかということですが、昨年11月に、市内の温浴施設2ヶ所を経営している株式会社創裕と協定を締結し、避難者への入浴や洗濯、温かい食事の提供が可能となりました。

また、食、教育、医療の学科・専攻が設置されている高知学園大学・高知学園短期大学と連携して、避難環境の質的向上に取り組む協定を締結させていただきました。この協定締結によって、トイレ、キッチン、ベッド、「TKB」にCを加えて、子どもの心のケアを取り入れた避難所の受け入れ態勢をこれから構築していくところです。施設自体は大変広く、避難所として使わせてもらいますし、大学が持つ様々な専門的知見を活用し、平時においてもお互いが勉強しながら、市内の避難所について検討していきたいと思います。

そして、避難所の資機材整備については、地方創生交付金を活用して4,000人分のシェルトターテント、これは2人用の2,000張りでございますが、これを年度内に配備予定であり、さらに地域未来交付金の活用も検討しているところでございます。

また、避難先の確保につきましては、香美市との協定にご尽力いただきありがとうございました。これで仁淀川町、いの町、香美市との協定になりましたが、まだまだ足りない状況ですので、県と一緒に、お力も借りながら確保に向けて取り組んでいきたいと思っております。

最後に、本市の独自の取り組みとしまして、本年1月1日から、民間施設を避難所として活用する仕組みを、届け出制により実施し、避難先の確保を進めております。すでに数ヶ所、手を挙げてくれたところがありますが、このように、これからは民間施設にもご協力いただきたいと思いますと思っております。

よろしく願いいたします。

#### 【司会】

続きまして「新県民体育館」について、濱田知事からお願いいたします。

#### 【濱田知事】

去年は、新県民体育館の整備に関しまして、アスパルこうちのグラウンド全面使用のお願いをいたしまして、市長には、基本的にご同意をいただき、市議会においても、県市で一緒にこの新しい体育館の整備をしていくことを表明いただきました。大変ありがとうございました。

今月16日に検討会の会議が行われまして、県が提案した最新の配置案をベースに議論い

ただいておりますが、いろいろなご意見がまだあり、特に運営面でコストの試算や収支の試算、またPFIなども含めて民間の活用については論点もあり、こういったところの議論がまだ十分できていません。

本来的には、できれば今年度末、3月末には基本計画の策定を済ませたいと思っておりますが、今のままではもう少し時間がかかると思います。そういう意味で、ここは基本の大事なところの議論でありますので、年度内に固執することはせずに、改めてしっかりと議論を深めて、しっかりとした基本計画を作りたいと思っております。

若干、当初の予定より時間が掛かるので、その点をご了解いただきたいと思いますが、一方で、今の立地の案としては市内からのアクセスとか、中心市街地の活性化という観点も踏まえて、もう現用地での整備を念頭に議論を尽くしていくのだということは、今年度、検討会を作ったときの大前提でもあります。

この点を今どうこうというつもりは、全く私どもとしてはありません。検討会の方でもいろいろ意見が言われるかもしれませんが、この点はぜひ理解を求めていきたいと思っておりますし、土地を無償貸与いただけるという意味でも、高知市はある意味、共同の事業者であると認識しています。

単に土地の所有者であれば、お金を出せば後の使い方は自由という関係もありうるかもしれませんが、決してそういうことではなくて、まちづくりという観点で、高知市としても新体育館の整備は大きな関心事であるし、防災拠点の観点も含めて、県市で一緒に協議をしながら作り上げていくというものであると思っております。

ぜひ引き続きのご協力をお願いします。

#### 【桑名市長】

新県民体育館の整備については、マスコミでも報道されておりますが、市民の皆さんから期待する声も届いております。

これまで実現しなかったプロスポーツの試合や大きなコンサートが高知でも見られるということで、これを早く進めてほしいという声も多くございますし、また、地域の活性化が進み、大きな経済効果が生まれると経済界の方からも声が届いているところです。また、地域の防災力向上にも貢献してくれるのではないかと期待する声が地元の方からも届いております。

しかし一方で、議会でも議論になりましたが、隣接する青年センターに通う子どもたちへの教育的配慮はしっかりやってほしいという声も届いているところです。

様々な意見がございますが、経緯は違えど、図書館の合築以来のビッグプロジェクトになりますので、街の賑わいづくりや地域の防災力向上といった観点、また、子どもたちがすくすく育っていきけるような教育面への配慮、様々な要素を抱き合わせ、そして未来永劫の発展に繋がるような施設を県と一緒に作っていききたいと思っております。

よろしくをお願いします。

**【司会】**

最後になりますが、「今後の人事交流」について、濱田知事からお願いいたします。

**【濱田知事】**

令和 6 年度から、市長からの申し出もいただきまして、幹部職員の県市間の人事交流を開始しまして、県の方では市から観光振興スポーツ部の副部長として、受け入れさせていただいております。例えば、プロスポーツの誘致なども含めて、大変ご活躍をいただいておりますし、特に高知市との連携が必要な事業を進めるに当たりましては、市役所の方々との人的なネットワークを生かして力を発揮いただいております。

素晴らしい人材を派遣していただきまして、感謝をいたしております。

一般的に、この手の人事交流は 2 年というのを 1 つの区切りに考えていくのだろうと思いますが、来年度以降も引き続き、何らかの形で人事交流を行っていきたいと考えておりますので、またご相談をさせていただきたいと思っております。

**【桑名市長】**

県から素晴らしい人材を送り込んでいただきましてありがとうございます。

特に今回は、消防の広域化や新県民体育館の整備など、お互いが連携しながら進めていかなければならない事案がございましたので、お互いの思いがタイムリーにわかるというのは本当にありがたく感じております。

また、本市から派遣しました職員も本当に生き生きと仕事をしておりまして、県庁で働くのはこんなに面白いのかといった、様々な話も伺っております。

お互いが連携し合うということは職場に対する刺激にもなりますし、ありがたいものだと思いますので、これからもお願いしたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

**【司会】**

それでは予定していた協議項目は以上となります。

最後に桑名市長からお願いいたします。

**【桑名市長】**

本日はお越しいただきまして誠にありがとうございました。

短い時間でしたが、本日の議題は大変重いものであり、意見をすり合わせ、方向性を合わせる事ができたことは成果だと思います。

冒頭でもお話ししましたが、来年度予算を組むにあたって、今の知事のお考えを聞かせていただきましたので、それと合わせながら、また引き続き予算編成作業を進めていきたいと

思います。

これからも、県市の連携をさらに進化させていきたい、そのための努力をしていきたいと  
思いますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

**【濱田知事】**

私の方もお礼を申し上げたいと思います。

今、お話がありましたように、ちょうど、県でも市でも予算編成と人事異動の作業がもう  
大詰めというところだと思いますので、この時期に改めて、率直な意見交換ができて、  
人口減少下でも活力ある高知、そして南海トラフが迫る中でも安心して暮らせる高知、この  
実現に向けて、本当に県市で連携をしなければいけない不可欠なテーマについて、腹を割っ  
た意見交換ができました。本当にありがとうございました。

我々もこの結果を踏まえて、予算編成にも反映をしていきたいと思いますし、本当ここ1  
年間を振り返っても、いろんなことで緊密な連携をさせていただける体制ができてきてい  
ると思います。さらにこれを伸ばしていけるように、私どもも取り組んでいきたいと思いま  
す。

よろしくお願いいたします。

**【司会】**

以上をもちまして、本日の意見交換会は終了とさせていただきます。